様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 16 日現在

機関番号：13101
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22520762
研究課題名（和文）　古墳時代豪族居館の変遷過程に関する研究

研究課題名（英文）　Study on the Change of the Residence of the Powerful Clan in the Kofun Period

研究代表者
橋本　博文（HASHIMOTO　HIROFUMI）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：20198691

研究成果の概要（和文）：　北関東では、前期になると四斗蒔１号タイプのような大型竪穴住居を入れた方形居館が出現する。それも南・北２辺の中央部に張出部を伴うものである。中期になると、権現山タイプのような不整形の平面プランをもつイレギュラーなものも確認できた。後期にも大型で張出部をもつ原之城タイプや、それをもたない今井学校タイプも認められる。外郭施設として土塁の内部への発達がみられる。葺石を伴うものが中～後期に存在する。

研究成果の概要（英文）：The square residence such as the Shitomaki 1-type which was contained a large pit dwelling was appeared in North Kanto district in the Early Kofun period. It has the square projections at each of the central parts of the south side and north side. I was able to confirm the irregular residence which had a plane plan of the irregular form such as the Gongen-yama-type in the Middle Kofun period. The residences which has the square projection such as the Gennojo-type and the residences which does not have it such as Imai-gakko-type exist in the large-sized residences in the Late Kofun period. The development of the earthwork is seen as an outer fence. There are residences with the surrounding ditch paved stones on the slope during from the Middle to the Late Kofun period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成２２年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成２３年度	1,000,000	300,000	1,300,000
平成２４年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・考古学
キーワード：古墳時代　豪族居館　変遷　弥生環濠集落　古代官衙

１．研究開始当初の背景

（1）研究代表者はこれまでに栃木県四斗蒔

遺跡で古墳時代前期の居館の実態を明らかにしてきた（平成９～11 年度の科学研究費基盤研究（C）の「古墳時代における首長層の居館と奥津城の関連性に関する研究」)。それと前後して栃木県下では同じく前期の下犬塚遺跡、堀越遺跡、中期の成沢遺跡、権現山遺跡が発掘調査され、栃木県下の古墳時代豪族居館の実態が朧気ながら見えてきた。群馬県でも、古墳時代前期の中溝・深町遺跡、中期の梅ノ木遺跡、荒砥・荒子遺跡、丸山遺跡、水久保遺跡、後期の原之城遺跡、今井学校遺跡などの豪族居館の発掘調査が相次いだ。しかし、十分な報告書が刊行されていないものもあり、その地域の中での豪族居館の変遷過程が必ずしも把握されているとは言えない（小笠原・阿部編　1991「豪族居館研究と課題」『季刊考古学』36)。

（2）その後、平成 13～14 年度には科学研究費基盤研究（C)「古墳時代開始年代および弥生・古墳時代時代区分の再検討」で、四斗蒔遺跡１号居館１号住居址の炉の熱残留磁気年代測定の結果と、そこから出土した布留０式の併行関係等から箸墓古墳の年代観に論及し、豪族居館が「卑弥呼の時代」の３世紀第Ⅱ四半世紀には出現している可能性があることを指摘した。

（3）平成 18 年には家形埴輪群の出土で著名な群馬県赤堀茶臼山古墳の至近に位置する独立丘陵、毒島城遺跡で赤堀茶臼山古墳と同時期の須恵器・土師器が採集されたことから、その被葬者の居館の可能性が高いとして発掘調査を試みた。しかし、そこに中世の城館址がのっているとして、その下層にあると推定される古墳時代の層まで調査が許可されなかった。その翌年、前年に申請していた平成 19～21 年度の科学研究費基盤研究（C)「家形埴輪群と豪族居館の地域での在り方」が採用され、方向転換して同一地域の豪族居館、今井学校遺跡の発掘調査を実施した。その結果、後期の大型居館の形態、規模、濠、柵列、出入り口部の様相が判明した。

（4）一方、付近の大型居館、原之城遺跡の視察の折、その内部中央西半の未調査区で商業的な長芋の深耕が続き、遺構の攪乱によって、多くの遺物が表面採集されるところとなった。その中には須恵器子持ち高坏の大形破片も含まれ、危機的状況であることを知った。そこで、現在確認されている日本最大級の古墳時代豪族居館が何の指定も受けておらず、保護対策が不十分であることを嘆き、平成 20 年・21 年と学内研究費を利用して地形測量調査を実施し、地元伊勢崎市、群馬県に対策を申し入れた。

（5）他方、以前四斗蒔遺跡を調査した栃木県側でも、新四号国道建設に伴って発見・調査された栃木県最大級の権現山遺跡が保存されず調査後一部を破壊され、残りの部分にも開発の手が迫っていることを知った。ここに、文化財保護の見地から両遺跡の重要性をアピールするためにも調査を計画するものである。

（6）研究代表者は、先に「四斗蒔遺跡の時代と豪族居館の出現」『四斗蒔遺跡の世紀』（さくら市ミュージアム）で、居館の出現問題を検討し、さらに「古墳時代の首長居館からみた古代豪族居宅」『古代豪族居宅の構造と機能』（奈良文化財研究所）で、居館の変質・変容過程について論及した。

大型居館今井学校遺跡との比較の上で、さらに２つの大型居館である原之城遺跡、権現山遺跡を加えて、北関東の地域の中で古墳時代豪族居館がどのように変遷するかに興味をもった。

２．研究の目的

これまでの古墳時代研究は古墳研究であ

ったといっても過言ではない。豪族居館の研究は大幅に遅れをとっている。破壊に瀕している重要遺跡、現在確認されている日本最大級の豪族居館、群馬県原之城遺跡、栃木県最大級の権現山遺跡の未指定古墳時代大型豪族居館の範囲確認調査、遺構確認調査を行うことにより、その全体像を明らかにする。それらを全国で最も多くの古墳時代豪族居館の確認されている北関東の地で位置づけ、研究代表者らが調査してきた前・中・後期の居館の変遷過程を究明したい。その調査・研究成果を両遺跡の保存に活かすことをも目的としている。

そこで、北関東における古墳時代豪族居館の変遷過程をとらえることを目的とした。

３．研究の方法

(1) まず栃木県の権現山遺跡の中期居館の実態を解明する。具体的には、権現山遺跡の西半部において遺跡の広がりを探り、全体の規模、形態を究明する。また、外郭施設の構造、出入り口施設の様相、内部構造、年代観等を追究する。

(2) 続いて、群馬県の後期の大型居館、原之城遺跡の性格を中期の大型居館、三ツ寺Ⅰ遺跡や後期の今井学校遺跡との比較から明らかにする。それは７世紀以降の古代の有力者の居宅との関わりを探る上でもポイントとなる。具体的には、原之城遺跡の未調査区の内部中央部西半の地区での耕作による攪乱・破壊に対処すべく、その部分の遺構確認を行う。平面的な遺構分布だけでなく、立面的な遺構の分布（掘り込みの深さ）についても情報を入手すべく、トレンチャーによる攪乱部分で、サブトレンチを入れ、遺構の残存状況を明らかにする。それを視覚的に保存すべく、竪穴住居址等の遺構の断面剥離標本を作製する（一部は文化財保護の目的から、地元に寄贈する予定である。)。以上によって、原之城遺跡の内部の実態を究明する。併せて、既発掘資料の再検討を行い、基準資料を研究者間で共有化できるようにする。それによって、各遺構の共存関係や時期、居館の営まれた時間的長さの問題等、居館の変遷の問題を探る手懸かりを得ることを目的とする。

(3) 以上の二つの大型居館の調査を踏まえて、地域の他の居館との対比を行い、地域の中での歴史的位置付けを試みたい。

(4) なお、関連して、両遺跡において、濠部覆土の土壌サンプリングを行い、そのテフラ・花粉・プラントオパール・珪藻などの自然科学的分析を実施する。それによって、両居館の年代や古環境、濠の湛水の有無などを明らかにしたい。

４．研究成果

当初予定していた群馬県伊勢崎市原之城遺跡の調査は測量調査のみで発掘調査は諸般の事情で実現しなかった。

(1) 研究の主な成果

①栃木県宇都宮市権現山遺跡の３回の発掘調査によって、栃木県最大の古墳時代豪族居館の実態が明らかになってきた。以前の栃木県教育委員会の調査で、東辺がおよそ 100m という規模で南東コーナーがほぼ直角に曲がるものの、北東コーナーが鈍角に開くことが知られていたが、その北東辺は長くは続かず、さらに南西に折れることが判明した。ここに、通有の居館とは異なる平面形のイレギュラーな居館の存在が確認できたのである。さらに、その古墳時代中期の５世紀中ごろの居館に先行する別の居館が存在する可能性が明らかになった。

一方、権現山遺跡の居館本体から約 200m 南に離れた位置に存在する、権現山遺跡 SG５区の方形囲郭施設の発掘調査により、居館

本体と同時期の権現山３段階の別の「居館」を確認することができた。こちらは堀と柵列からなり、内部には竪穴が主に存在するらしい。本体と違って通有の方形を呈する。同時期の性格を異にする施設か、階層差と考えられた。規模は東辺が約 45mと小さい。張り出し部は認められない。

②北関東における古墳時代豪族居館の変遷

北関東では、畿内の布留０式併行期以前には、西原タイプのような弥生環濠集落的な不整形に堀を巡らした集落が存在する。前期の布留０式併行期になると大型竪穴住居を入れた方形居館が出現する。それも南・北２辺の中央部に張出部を伴うものである（四斗蒔１号タイプ）。その一方で、単純な方形居館も存在する（有馬条里タイプ）。また、中溝・深町タイプの掘立柱建物を中に入れる長方形を基調とする堀で囲まれた政治域と推定されるエリアと高床式倉庫群からなる倉庫域、さらに井泉と掘立柱建物からなる祭祀域などから構成される「大型居館」も認められた。

中期になると、張出部を多く伴う方形を基調とする大型居館の三ツ寺Ⅰ・北谷タイプが現れ、大規模な堀の内側に葺石をふく。この柵列に囲まれた内部には大型掘立柱建物や大型竪穴住居、工房、祭祀遺構、井戸などが配置されている。また、権現山タイプのような不整形の平面プランをもつようなイレギュラーなものも確認できた。

一方で、張出部・葺石をもたない小型居館の丸山タイプのようなものも継続してみられる。こちらは竪穴住居を主体とするものである。

後期にも大型で張出部をもつ原之城タイプや、それをもたない今井学校タイプも確認できた。前者は高床式の倉庫群や祭祀遺構、大型竪穴住居、掘立柱建物などからなる。外郭施設として土塁の発達がみられる。前期段階の四斗蒔タイプのような外側土塁だけでなく、内側にも土塁が存在するようになる。

なお、本宿・郷土タイプのような土塁に葺石を伴うものもみられる。これは中期の三ツ寺１・北谷タイプからの一部流れと考えられた。また、今井学校タイプでは大型竪穴住居が認められるが、これにはＬ字型カマドが伴い、渡来人との関わりもうかがわれた。

このように、北関東では畿内の影響を受けつつも、囲郭施設の発達などの地域特性も指摘できた。

（2）得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

北関東における古墳時代豪族居館の変遷過程がおおよそ明らかになったことによって、国内の他地域の居館の変遷過程に対する比較データが揃った。これによって、全国的な編年と地域性を検討する一指標となろう。また、国内の王宮はもとより、国外的にも中国・朝鮮半島における都城等との関わりも視野に入れることができるようになった。

（3）今後の展望

これまでの３次にわたる調査で栃木県最大の権現山遺跡の居館の形態や規模、一部内部の様子を明らかにしようとしてきた。しかし、権現山遺跡本体の豪族居館が通例の古墳時代豪族居館と違ってイレギュラーであることが徐々に明らかになってきた。今後は中心部の調査を進めない限り、新たな事実を解明することはできないだろう。

一方、北関東の大型居館として、前橋市笂井八日市遺跡の実態を明らかにすることがこの種の研究の鍵になると考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）
①橋本博文、古墳時代豪族居館遺跡の保存・整備・活用、明日への文化財、67 号、査読無、文化財保存全国協議会、2012、1-22

〔学会発表〕（計　３件）
①橋本博文、日本の古墳時代豪族居館と若干の日韓比較、日韓集落研究会研究発表例会、日韓集落研究会、韓国京畿道博物館、2011 年 8 月 28 日
②橋本博文、基調講演　古墳時代豪族居館遺跡の保存・整備・活用、文化財保存全国協議会、第 42 回群馬大会、高崎市ヤマダ電機ラビゲート、2011 年 6 月 19 日
③橋本博文、 古墳時代豪族居館を動的にとらえる、日本考古学協会 2011 年度総会、日本考古学協会、國學院大學、2011 年 5 月 29 日

〔図書〕（計　７件）
①橋本博文、ほか、新潟大学人文学部、『新潟大学考古学研究室調査研究報告３』13（栃木県宇都宮市権現山遺跡発掘調査報告）2013、61
②橋本博文、ほか、新潟大学旭町学術資料展示館、『古墳時代の豪族居館跡　栃木県・権現山遺跡 2011 年度の調査成果』2012、4
③橋本博文、古墳時代の豪族居館、講座日本の考古学、古墳時代・下、青木書店、324-350
④橋本博文、ほか、新潟大学人文学部、『新潟大学考古学研究室調査研究報告２』12（栃木県宇都宮市権現山遺跡発掘調査報告）2012、77
⑤橋本博文、ほか、新潟大学旭町学術資料展示館、『古墳時代の豪族居館跡　栃木県・権現山遺跡 2010 年度の調査成果』2011、4
⑥橋本博文、ほか、新潟大学人文学部、『新潟大学考古学研究室調査研究報告』11（栃木県宇都宮市権現山遺跡発掘調査報告）2011、49
⑦橋本博文、ほか、新潟大学旭町学術資料展示館、『古墳時代の豪族居館跡　群馬県・今井学校遺跡 2009 年度の調査成果』2010、4

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
橋本　博文（HASHIMOTO　HIROFUMI）
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：20198691

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：